

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
M21N301	疫学 (Epidemiology)	専門教育科目 健康科学

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	1	3	前期	火・1	齊藤 功、舩越弥生 内線：5732 E-mail：funakoshi@oita-u.ac.jp

【授業の概要・到達目標】

疫学は、特定の集団において健康に関連する状況や事象（疾病、死亡、行動など）の頻度や分布を調べ、それらに関連する要因について検討する学問であり、疾病の予防や健康増進に資することを目的としている。疫学的手法は、公衆衛生をはじめ疾病の予後因子の探索や、健康増進プログラムや行政サービスの評価など幅広い分野で用いられている。本講義では、疫学の基本的事項を修学する。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 疫学的な考え方と基本的な用語を理解する。				○			
2. 地域保健活動における疫学の応用について説明できる。			○				
3. 健康問題を評価するために既存資料を活用できる。						○	
4. スクリーニングの意義を説明できる。					○		
5. 疫学研究における倫理的問題について説明できる。	○						

【授業の内容】

1・2	疫学的な考え方とは	9	保健指導における疫学の応用
3	疫学の基本的な用語を理解しよう	10	人を対象とした研究の倫理
4	疾病の原因、疫学的な因果関係の考え方	11	スクリーニング検査
5	疾病頻度の指標－有病と罹患の区別	12	母子保健の疫学
6	曝露の効果を表す指標－相対危険と寄与危険	13	栄養疫学
7	疫学研究のさまざまなデザイン	14	EBM（根拠に基づく医療）、文献検索の意義と検索方法
8	疫学研究の質－真実と誤差	15	まとめ

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A：知識の定着・確認	○	小テスト	<ul style="list-style-type: none"> インターネットを活用して国内外の疫学研究に触れることにより、国際化および情報化社会に主体的に対応できる能力を養う。 新しい発想と創造的思考力を養うため、学生自らが問題意識を持ち、課題を発見し、文献を調べ、自分の意見を述べる機会を設ける。
B：意見の表現・交換	○	講義中に意見を求める	
C：応用志向	○	オンライン上文献検索	
D：知識の活用・創造	○	レポート（先行研究から得た知識、自分の意見、新しい発想など）	

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	教科書などを用いて次回の学習内容について予習する（5h）。
事後学修	教科書・配布資料・小テスト・Moodle（e-learning）を用いて授業で学習した内容を復習する（10h）。

【教科書】

・大木秀一（著）：基本からわかる看護疫学入門（第3版）、医歯薬出版株式会社、2017年、ISBN-13：978-4263236987。

【参考書】

- ・浅野嘉延（著）：楽しく学べる！看護学生のための疫学・保健統計（改訂4版）、南山堂、2023年、ISBN-13：978-4525053444。
- ・World Health Organization（著）、木原 雅子・木原 正博（訳）：WHOの標準疫学（第2版）、三煌社、2008年、ISBN-13：978-4901433044。

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5
課題、レポート	40%	○	○	○	○	○
期末試験	60%	○	○	○	○	○

【注意事項】 特になし。

【備考】 特になし。

担当教員の実務経験の有無	○	
教員の実務経験	齊藤功（社会医学系指導医・専門医、日本公衆衛生学会認定専門医、産業医）、舩越弥生（管理栄養士）	
教員以外で指導に関わる 実務経験者の有無		
教員以外の指導に関わる 実務経験者		
実務経験をいかした 教育内容	実務で行っている学校保健分野の疫学調査や保健教育への関与をもとに、公衆衛生活動で必須となる疫学の基本的な知識について講義する。	
授業形態	メディア授業（オンデマンド）	